

教科（科目）	理科（地学基礎）	単位数	2単位	学年（コース）	2～3年次 選択
使用教科書	実教出版 『地学基礎』				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までにこのような資質・能力を育みます</p> <p>① 自他を大切にできる豊かな心やコミュニケーション能力を育成します。</p> <p>② 勤労観を身に付け、自立し、地域社会に貢献できる人材を育成します。</p> <p>③ 社会の変化に適応できる人間性と幅広い学びにチャレンジする精神を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います</p> <p>① 少人数制授業や授業における学びのユニバーサルデザイン化を図るとともに、ICT等を活用しながら基礎・基本の学びを展開し、個に応じた指導を行います。</p> <p>② 二人担任制や充実した教育相談体制により、社会への適応力や規範意識醸成のために生徒に寄り添った生徒指導を実践します。</p> <p>③ 自他を尊重し、よりよい人間関係を築くことで協働的に学び合う学習に取り組みます。</p> <p>④ 地域と連携したキャリア教育を充実させるとともに、個別最適な学びにより、生徒一人一人の進路指導を行います。</p>

2 学習目標

<p>地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
--

3 指導の重点

<p>1 自然の事物・現象について、時間をかけて丁寧に説明し、イメージできるようにして理解させる。</p> <p>2 地学的な事物・事象について、観察を行ったり動画を見せたりして、自然に対する関心や探究心を高める。</p> <p>3 根拠のないものの見方に左右されない、科学的な自然観を育成する。</p>
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。自然環境の保全に寄与する態度が身に付いている。

5 評価方法

各観点における評価方法は次のとおりです。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>・定期考査や小テストの分析</p> <p>・観察、実験、式やグラフでの表現の観察</p> <p>・レポート、学習プリント、ワークシート、等の提出物の内容の確認などから、評価します。</p>	<p>・定期考査や小テストの分析</p> <p>・授業中の発言や発表への取組の観察</p> <p>・学習プリントやワークシート、等の提出物の内容の確認</p> <p>・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。</p>	<p>・授業中の発言、発表や討論への取組の観察</p> <p>・学習プリントやワークシート、等の提出物の内容の確認</p> <p>・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。</p>

6 学習計画

月	単元名	学習内容	時間	評価の観点	評価方法
4	1章 地球の構成と運動 1節 地球の構造 1. 地球の形と大きさ 2. 地表のようす 3. 地球内部の構造	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形の特徴と大きさを、観察や測定の結果などから見いださせて理解させる。 地球の赤道半径と極半径を扱い、地球が厳密には球でないことを理解させる。 地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解させる。 地球内部の層構造について、地殻、マントル、外核、内核の区分と状態を扱う。また、それぞれの代表的な構成物質についても扱う。 観察や測定を通して地殻やマントルを構成する岩石の特徴を見いださせ、層構造について理解させる。 プレートとの分布と運動の様子を理解させるとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解させる。 プレートについては特徴や分布を扱う。また、プレートの境界は3種類あることを理解させる。 マントル内にプルームが存在していることを扱う。 中央海嶺や海溝、大山脈などの大地形の形成や、断層・褶曲などの地質構造がプレートの運動と関連していることを見いださせる。 堆積岩や火成岩が高圧や高温下で変成作用を受けることによって変成岩が形成されることを理解させる。 	8	a, b, c	学習プリント (点検・確認)
5	2節 プレートの運動 1. プレートテクトニクス 2. 大地形の形成と地質構造		9		
6	前期中間考査		1	a, b, c	
7	1章 地球の構成と運動 3節 地震と火山 1. 地震活動 2. 火山活動	<ul style="list-style-type: none"> 火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させる。 海溝付近の地震を扱い、プレートの収束境界における地震の発生の仕組みを理解させる。 内陸部の活断層による地震や沈み込むプレート内の地震を扱い、プレートの境界以外にも地震が発生することを理解させる。 プレートの発散境界や収束境界における火山の活動や分布などの特徴を理解させる。 火成岩については、組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類されること、及び多様な火成岩がマグマの性質と関係していることを学ばせる。 気圧や気温の鉛直方向の変化に関する資料に基づいて、大気の特徴を見いださせて理解させる。 大気の特徴については、気圧や気温が高度とともに変化することや、対流圏、成層圏、中間圏、熱圏が気温の変化によって区分されていることを理解させる。 	8	a, b, c	学習プリント (点検・確認)
9	2章 大気と海洋 1節 大気の特徴と運動 1. 高度による気圧・気温の変化 2. 大気の大気構造 3. 大気中の水とその状態 4. 大気の状態		8		
	前期期末考査	1	a, b, c	テスト (分析)	
10	2章 大気と海洋 2節 大気の大循環 1. 地球のエネルギー収支 2. 大気の大気構造 3. 大気の大循環 4. 温帯低気圧と熱帯低気圧	<ul style="list-style-type: none"> 地球全体として大気を通して出入りする太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解させる。 人工衛星による赤外面像や放射冷却に関する資料に基づいて、大気や地表から放射が行われていることを理解させる。 年平均の風や海流の分布などの資料に基づいて、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。 	8	a, b, c	学習プリント (点検・確認)

7 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに学習プリントを配布するので、授業中に取組み解説を聞いて、定着を図ります。
- ・ 授業中は、しっかりと「聴く」「考える」「書く」。
- ・ 出された課題にしっかりと取組み、提出期限を守る。

8 担当者からの一言

- ・ 真面目にコツコツと学ぶ姿勢を求めます。
- ・ 1回欠席すると内容が分からなくなります。毎時間しっかりと出席をしてください。
- ・ 自分で考えることを大切にして、しっかりと課題に取り組んでくれることを期待します。
- ・ 成績評価は定期考査と提出物・出席・授業態度などを合わせて総合的に評価します。